

## 活動報告8

## ニセウの森づくり運営委員会／東川町

報告者 大石拓人さん

当委員会は、東川町キトウシ森林公園に隣接している森をフィールドにしています。目的は「子どもと大人を対象に森の手入れ・森の利活用・動植物の観察会プログラムの継続的な実施を通して、東川町キトウシ森林公園の市民参加型の森の環境保全と地域活性化を進める」こと。一般市民、NPOメンバー、それに北海道教育大学旭川校の学生たち、合わせて22名が会員で、基本的には全員が別の本業を持ち、休日にこの活動に参加しています。このほか町内外の方々がボランティアとして参加くださっています。

平成26年に作成した「ニセウの森プロジェクト」が、私たちの森づくりのミッションです。プロジェクトはピラミッド型になっていて、基盤には歴史・文化、エネルギー、遊ぶ、創る、食・健康といったキーワードが並んでいます。「森の中には生活のすべての要素があるのではないか」との仮定に基づいて、これらを学ぶプログラムを組みました。そして、こうした活動の結果、「森が生き生きとよみがえる」「人々が生き生きと輝く」、そういった豊かな未来をつくることを目的に掲げました。すべての活動が、このミッションに基づいて実施されています。

森林整備というと難しいので、私たちは「森のお手入れ」と呼んでいます。初年度は植生調査と、それに基づく未来予想図作成を行ないました。以降は毎回4～15人が参加し、下草・ウルシ刈り、風倒木除去、立ち枯れ木の処理などを

しました。

また「北海道森と緑の会」が毎年開催している研修会に手を挙げて、私たちのニセウの森でブラシカッターやチェーンソー研修を実施しました。参加者の満足度は非常に高かったです。

このほか、シラカバの皮クラフトをはじめとする体験会を開いたり、「月に一度は森づくり」（親子向け）、「森のようちえん」（幼稚園児向け）、「森つく」（児童向け）といった公開活動を行ない、毎回15～40人の参加がありました。

手入れをすると、森は気持ちのいい空間になります。すると人が集まるようになり、何かおもしろいことをしようというアイデアが生まれます。企画を立て、それが実現すれば森に感謝する気持ちが起き、また手入れにつながります。森に対する感謝を忘れず、森が身近にある未来をつくっていきたいと考えています。一言で表すと森のコミュニティセンター、略して「コミもり」をつくりたい。私たちだけではなく、全道・全国でこれが行なわれたら森も人も元気になるはず、と想像しながら活動しています。

